

関

那珂湊

60キ ロ級V

男子

全国高校柔道選手権

柔道の全国高校選手権
県予選は14日、県武道館
で男女の個人戦各5階級
が行われ、男子81キ級は
松下颯太(つくば秀英)、
同60キ級は関公誠(那珂
湊)が優勝した。女子無
差別級は大塚菜未(水戸
啓明)、同63キ級は永見
ひな(牛久)が制した。
各階級の優勝者が全国選
手権(3月19、20日・東
京)に出場する。

全国選手権は新型コロナウイルス
の感染対策のため規模が縮小され、団体
戦は実施しない。

【男子】
◇個人◇60キ級準決勝 関(那
珂湊) 背負い投げ 大内(水戸葵陵)
大塚(水戸葵陵) 背負い投げ 奥村
(牛久)
▽同決勝 優勝 大塚
◇66キ級準決勝 清水(水戸啓
明) 優勢高橋(多摩学園) 山田
(水戸啓明) 優勢 嘉田(つくば秀
英)
▽同決勝 優勝 山田
清(水戸葵陵) 松井(つくば
秀英) 反則勝ち 宮田(同) 奥地
(水戸啓明) 背負い投げ 奈良
浦(日大)
▽同決勝 優勝 奥地
松井(優勢) 奥地(地)
◇81キ級準決勝 飯村(水戸啓
明) 裏投げ 長谷川(つくば秀英)
松下(つくば秀英) 反則勝ち カワ
レシ(同)
▽同決勝 優勝 奥地

延長戦制す 技仕掛け続ける



部員たった2人という厳
しい練習環境をもとに
ず、関公誠(那珂湊2年)
が男子60キ級を制した。初
の県大会優勝に「言葉では
表せないほど、お世話にな
った人への感謝でいっぱい
だった」と振り返った。

「い」と感慨に浸った。
決勝は昨年11月の県新人
大会準決勝で、延長戦の末
に惜敗した相手。前回の反
省を生かし、相手よりも先
に組んで主導権を取った。
延長戦に入っても前に出続
け、最後は相手に指導が出
て勝利。「がつがつと技を
磨いた」。

2学年上の先輩2人が引
退した後から、昨春に後輩
1人が入るまで部員1人が
続いた。それでも、木川太
蔵監督(41)との二人三脚で
力を付けてきた。平日は単
独で打ち込みの動きを反復
し、監督の胸を借りて技を
磨いた。

週末は水戸啓明など県内
の強豪校に出稽古。さまざま
なタイプの相手に対応で
きるようになった上、多く
の指導者から助言を受け
た。高校入学生後の生活は「
環境で強くなろうと決めた
ので、嫌になったことはな
い」と言い切った。

大久保中時代の最高成績
は県大会8強。高校では2
019年の県新人大会準優
勝だった。今大会、攻撃的
な柔道が開花し、ついに県
ナンバーワンの称号を得
た。木川監督は「他校にも
支えてもらい、時間はかか
ったが、やっと自分のスタ
イルができた」と目を潤ま
せた。

高校での最終目標は日本
一だ。3月の全国大会に
向けて「今まで以上に一日
一日を大切に全力で挑
みたい」と気合十分に語っ
た。

(岡田恭平)

▽同決勝 優勝 飯村
松(下) 合わせ 飯村
▽無差別級準決勝 塚田(八千
代) 反則勝ち 千田(水戸啓明)
緑川(つくば秀英) 反則勝ち カワ
レシ(同)
▽同決勝 優勝 飯村

緑川 川 弘い巻 塚田 坂口 合わせ 紺野
き込み
【女子】
◇個人◇48キ級準決勝 坂口
(水戸葵陵) 反則勝ち 勝村(牛久)
紺野(土浦日大) 依返し 柏(水戸
葵陵)
▽同決勝 優勝 紺野

藤田 優勝 福島
▽同決勝 優勝 福島
島久 送り襟絞め 藤枝(竜ヶ崎)
▽同決勝 優勝 藤枝

▽57キ級準決勝 清水(水戸啓
明) 優勢 佐藤(土浦日大) 浅村
(水戸啓明) 優勢 水野(同)
▽同決勝 優勝 水野
清(宮) 優勢 浅村
▽63キ級準決勝 水見(牛久)
反則勝ち 島(八千代) 星(牛
久) 送り襟絞め 藤枝(竜ヶ崎)
▽同決勝 優勝 藤枝

▽同決勝 優勝 浅村
永(見) 優勢 星
▽無差別級準決勝 石川(八千
代) 反則勝ち 関口(水戸葵陵) 大塚
(水戸啓明) 合わせ 技小森(多賀
大) 背負い 石川
▽同決勝 優勝 石川